

1. 評価結果概要表

〔認知症対応型共同生活介護用〕

【評価実施概要】

事業所番号	4572100586
法人名	医療法人社団慶城会
事業所名	仰星台東郷
所在地	日向市東郷町山陰丙1507番2 (電 話) 0982-50-7051

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成 20年 7月 11日

【情報提供票より】(20年 5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 250 円	昼食 300 円	
	夕食 350 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	2 名	
要介護3	2 名		要介護4	4 名	
要介護5	1 名		要支援2	名	
年齢	平均 86.7 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団慶城会瀧井病院・医療法人志徳会土田歯科クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは公立病院や地区自治センターに近い町の中心地にある。利用者がこれまで培ってきた家族や地域との関係を継続し、地域活動への参加を積極的に行っている。地域住民と行政との連携づくりが日常的に行われ、ホームは地域の大きな存在となっており、利用者や家族の安心に繋がっている。「ゆっくりと、安心して」の思いを全職員で共有し、一人ひとりに向き合った暖かい支援に取り組んでいる。利用者の笑顔やゆったりとくつろぐ雰囲気があり、このホームで、利用者も職員も安心して穏やかに生き生きと暮らしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 馴染みながらのサービス利用、チームでつくる利用者本位の介護計画、そして入浴を楽しむ事ができる支援について、それぞれ検討され工夫・改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価に取り組み、日常業務の中で日ごろのケアを見つめ直す機会となった。マンネリ化することなくケアの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回開催し、行事やケアの実施状況、災害対策、自己評価について報告し、行政関係者、地区消防団、公民館長、民生委員、家族の助言等を得ている。評価結果の意見をいただき、ケアの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時や電話などで意見・不満・苦情をいつでも職員に言いやすいよう心がけている。玄関に苦情箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎年、地域のお神輿を繰り入れたり、婦人会の踊りを披露して利用者を楽しませてくれる。玄関のポーチがバンド演奏の場所となり、地域に無くてはならない存在である。地域と連携した防災訓練や地域の人々がホームに来て、地域行事の料理作りをしていただくなど、地域の人々が身近な存在となっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が培ってきた家族や地域との関係の継続を大切にして、地域活動への参加を積極的に行っていく。」を理念に揚げ、地域の中に溶け込み、住みなれた地域で安心して暮らしが継続できるように柔軟な支援の取り組みを理念の柱としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は意志の統一を図り、要所に理念を掲示し、ミーティング時に唱和して理念を共有している。具体的なケアについて、管理者は職員の立場を理解し、職員はよりよいチームワークで意識しながら理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、ホームにお神輿を繰り入れたり、婦人会の踊りの披露や玄関のポーチが地区のバンド演奏の場になり、利用者を楽しませてくれる。行事の料理作りをホームで行うなど地域の一員として地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。地域で必要とされる活動の場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。ケアの振り返りや自分自身を見つめ直すことができた。評価結果を活かし改善に向け全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、地域自治センター職員、消防団員、公民館長、民生委員、家族に行事やケアの実施状況・評価結果を報告し、助言等を得て、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは市町村担当者へ情報の提供をし共に課題解決を図っていく取り組みをしている。台風に備えた避難計画書を作成し、民生委員・消防団や地域の人々との関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、日ごろの暮らしぶりやエピソードなど、各職員が手書きでお便りにしている。利用者の健康状態に変化が見られたときには、随時、細かく家族に連絡し信頼関係を築くようにしている。預かり金は個別に出納帳で管理し、定期的に報告しサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、来訪時に何でも言いやすいような雰囲気づくりをしている。運営推進会議には全家族に案内し、参加を促しホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、2年以上行っていない。新しい職員は勤務に入る前に何度か来訪していただき、利用者とのラポートづくりをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修を受講できるようにしている。研修を受けた職員はその月の定例会で報告している。職員がスキルアップできることや資格取得には全面的な援助がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、市内グループホームの管理者が交流する機会を持ち、関連の事業所での相互研修会や事例検討等を通して、外部施設の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学に来てもらい居室に案内したりして、支援の内容などお伝えし、安心して納得して、徐々にホームの雰囲気を知ってもらうように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の得を積んだ先輩として学ぶことが多い。節目の行事の食事づくりを教えてもらったり、一緒に過ごしながら和やかな生活ができるよう支援している。最初の出会ってから、その人の発した言葉や会話の中の項目をメモし、後日、支援に活かしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	真正面から向き合って声をかけ、一人ひとりの思い・意向・暮らし方の希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族から元気なころの様子などを聞いてケアに活かしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム独自の「介護記録」がある。時間・キーワード・訴えや行動・スタッフがかけた言葉・行動・相手の反応・感じたこと・計画の各項目の記録で一目瞭然、本人の課題とケアのあり方に反映できる。定例会議やカンファレンスを開き本人や家族の思いや意見を聞き、スタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会議で利用者一人ひとりについて意見交換を行っている。安定しているような利用者の場合も、月に1回は本人や家族の以降や状況を確認し新たな目で見直す取り組みをしている。利用者の状態の変化や状況、家族・本人の要望に応じて3か月に1回介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の事情などで、ほとんど職員が病院受診の送迎をしている。		
r					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関に受診している。訪問診療にも来てもらい、複数の医療機関と密に連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族、医師、管理者を交えて話し合い、全員で方針を共有している。終末の対応について、家族・医師・看護師を交えた話し合いを持ち、終末期の医療処置の対応や支援の具体的な内容を話し合い、チームの連携体制づくりで終末期のケアを体験した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は日々、気になることがあったら、その都度、改めるよう指導している。ことばかけ、トイレのブザーで報せる仕組みなど利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう対応に心がけている。個人記録の取り扱いにも注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や意向に配慮しながら柔軟に対応し本人が満足できるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきを行いながら、また味見をしてもらったり、利用者と向き合っ楽しみながらの食事になるよう雰囲気づくりを大事にしている。利用者一人ひとりの力を活かして一緒に片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水曜日を除く毎日、一人ひとりの好みや希望にあわせた入浴の支援をしている。歩く機能を活かし職員二人で両手をつなぎ声掛けしながら浴室に誘導し、細かいケアをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割があり、仕事をしている時はいきいきとしている。利用者から「大変だから、手伝うよ!」と職員に労をねぎらう言葉をかけられ、「ありがとう!」と感謝の言葉を交わしながら支援をしている。みんなで金柑や梅の実の保存食づくりをして、食卓にのせている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換を図り、買い物に出かけたり、外出できる機会をつくっている。玄関のポーチ辺りに車椅子で移動したり、希望にそって、戸外に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はしていない。門扉は、交通量の多い国道に面しているが、いつも閉めっ放しにしないよう、できるだけ開放の機会をつくっている。	○	家族や地域の方など訪問者が訪問しやすい環境にするためにも門扉を開放する取り組みをすすめてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。日ごろより地域の人々の協力と連携が得られるよう働きかけている。災害時は、同法人の他のホームや地域住民と連携し、通報や対処手順を整備している。保管庫に常時、非常用品が備蓄されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
ホームの					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握して、毎日記録している。全職員が状況を確認し、必要な食事や水分が摂れるようにしている。嚥下力・咀嚼力に応じた調理法や繊維性食品など栄養のバランスを配慮した食事の支援をしている。		メニューのバランス等について、同法人内の管理栄養士に相談する機会があれば、より安心して食事の支援ができるのではないのでしょうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは季節の花や観葉植物が置かれ、丸みのあるテーブルがあり優しい雰囲気を醸し出している。利用者が長いソファで会話したり、ゆったりと過ごしている。厨房からホールの様子を確認でき、食材を刻む音や香りが漂ってくる。補助照明を廊下壁手すり下部に設置し、夜間行動時の安全確保に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、使い慣れた家具などを持ってきていただき、居心地よく過ごせるよう配慮している。ベッドサイドにポールを新設して自立促進に繋がったり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		